

# 地方創生推進交付金事業 検証資料

---

## 目次

### 地方創生推進交付金事業評価シート

- ・「活力あふれるまちづくり」ブランド戦略展開事業・・・ 1 ～ 2
- ・家族のかたちがココに～広陵 Country プロジェクト～・・・ 3 ～ 4
- ・「ほどよく都会 ほどよく田舎」“近畿”で1番魅力ある町！！発信プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 ～ 6
- 評価基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

地方創生推進交付金事業評価シート

1 基本事項

事業名	「活力あふれるまちづくり」ブランド戦略展開事業																																				
地方創生 総合戦略	<基本目標 3> (1) 活力あふれる産業づくり ②商工業の振興 P-13																																				
事業内容・実績																																					
<p>・事業内容</p> <p>地場産業はもとより、町内全事業者の底上げが必要であると考えられることから、町内全事業者に対して、現状を把握するためのアンケート調査を実施した。このアンケートの集計を奈良女子大学に依頼し、産官学で形成する「広陵町の地域活性化をめざす中小企業等検討会」で分析を行うことで、今後、事業者が生き残っていくために必要な課題を共に解消していくこととしている。</p> <p>また、町内地場産業である靴下の販路拡大のために実施している、「靴下デザインコンテスト」で表彰を受けた靴下に貼付するロゴマークを作製し、併せて販促用靴下 PR ポスターの作製を行った。</p> <p>・事業実績：町内事業者アンケート調査</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">賃金</td> <td style="padding-left: 20px;">回収</td> <td style="text-align: right;">347,250 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">集計</td> <td style="text-align: right;">120,800 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">消耗品費</td> <td></td> <td style="text-align: right;">237,593 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">印刷代</td> <td style="padding-left: 20px;">調査票</td> <td style="text-align: right;">194,400 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">返信封筒</td> <td style="text-align: right;">10,800 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">郵送代</td> <td style="padding-left: 20px;">調査票</td> <td style="text-align: right;">108,042 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 20px;">返信用</td> <td style="text-align: right;">54,697 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">手数料</td> <td style="padding-left: 20px;">回収用</td> <td style="text-align: right;">14,040 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">保険料</td> <td style="padding-left: 20px;">回収用</td> <td style="text-align: right;">88,500 円</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="padding-left: 40px;">合 計</td> <td style="text-align: right;">1,176,122 円</td> </tr> </table> <p>・事業実績：靴下 PR 事業</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">委託料</td> <td style="padding-left: 20px;">ロゴ・PRポスター作製</td> <td style="text-align: right;">999,972 円</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">総 合 計 2,176,094 円</p>					賃金	回収	347,250 円		集計	120,800 円	消耗品費		237,593 円	印刷代	調査票	194,400 円		返信封筒	10,800 円	郵送代	調査票	108,042 円		返信用	54,697 円	手数料	回収用	14,040 円	保険料	回収用	88,500 円		合 計	1,176,122 円	委託料	ロゴ・PRポスター作製	999,972 円
賃金	回収	347,250 円																																			
	集計	120,800 円																																			
消耗品費		237,593 円																																			
印刷代	調査票	194,400 円																																			
	返信封筒	10,800 円																																			
郵送代	調査票	108,042 円																																			
	返信用	54,697 円																																			
手数料	回収用	14,040 円																																			
保険料	回収用	88,500 円																																			
	合 計	1,176,122 円																																			
委託料	ロゴ・PRポスター作製	999,972 円																																			
事業費 (単位：千円)			H28	H29	H30																																
	事業費(収入額)		2,176	8,000	6,500																																
	財 源 内 訳	国補助	1,082	4,000	3,250																																
		県補助	0																																		
		使用料	0																																		
一般財源		1,094	4,000	3,250																																	

## 2 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	指標値 (目標値)	H28 実績値
繊維業売上高	11,597 百万円 (H24)	—
従業者数	工業：2,402 人	工業：2,079 人
事業の課題	※繊維業売上高の RESAS による最新指標が示されていないため、代替数値による検証を実施。 <b>【参考】</b> 繊維工業出荷額 H24：8,655.5 百万円 H25：8,464.6 百万円 アンケート調査により浮き彫りとなった、町内事業者の課題を解消するための施策や広陵ブランドロゴマークの周知を展開していく必要がある。	

## 3 項目別評価

項目		項目別	総合	評価説明
妥当性	行政が関与すべきか	A	A	町内全事業者に対しアンケート調査を実施した結果、61.8%の回答があった。このアンケートを集計し事業者の課題を分析することができた。 また、広陵ブランドロゴマーク・PRポスターも作製し、今後展開により地場産業の底上げに繋げていく。
	住民ニーズは高いか	B		
	目的・対象は妥当か	A		
有効性	事業の効果があるか	A	A	
	成果向上の可能性	B		
	長期計画への貢献度	A		
効率性	手段は最適か	A	A	
	低コスト・効率化	A		
	受益者負担は適正か	A		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向				事業の方向性に関する考え
拡充 (増)		地域住民	○	分析結果では、産業の担い手不足や若者の労働力確保といった課題があるため、広陵ブランドロゴマーク等を使用し、周知活動を行い広陵ブランドを広めていくことにより、町内事業所の向上、若者の雇用を創出することができるようにしたい。
		各種団体		
継続 (現行のまま継続)	○	町	○	
継続 (事業改善して継続)		広域		
縮小 (減)		民間	○	
廃止		その他		

部	事業部	課	地域振興課
---	-----	---	-------

地方創生推進交付金事業評価シート

1 基本事項

事業名	家族のかたちがココに ～広陵 Country プロジェクト～				
地方創生 総合戦略	<基本目標 1> (2) 本町への定住・転入の促進 ②定住・転入施策の充実 P-7				
事業内容・実績					
<p>○事業内容</p> <p>生産年齢人口の減少と高齢化率の上昇を迎える中、移住・定住事業や空き家利活用事業、就労支援事業を実施し、社会流入を促進することとしている。平成 28 年度においては、空き家を利活用するための仕組みを構築するとともに、移住・定住施策を開始した。</p> <p>○実績</p> <p>・【一般社団法人移住・住みかえ支援機構(JTI)委託料】</p> <p>住宅や空き家を賃貸したい方を募集し、移住者等に対して貸出物件としてストックする JTI の「マイホーム借上げ制度」を活用するため、当該制度の協賛事業者を募ったところ、3 者の協賛があった。</p> <p>JTI 制度活用事業者登録費用：60,000 円×3 者＝180,000 円</p> <p>・【移住・定住制度周知費用】</p> <p>移住・定住に関する情報について、ワンストップで情報発信できるパンフレットを作成し、制度の周知を図った。</p> <p>移住・定住パンフレット作成費用：197,640 円</p> <p>・【空き家バンク登録事業】</p> <p>JTI が実施している住宅ストック制度を活用し、町内で利活用したい方を対象に住民説明会を実施したところ、12 名の参加があった。</p> <p>説明会チラシ作成費用：49,950 円</p>					
事業費 (単位：千円)			H28	H29	H30
	事業費(収入額)		428	9,030	4,500
	財 源 内 訳	国補助	214	4,515	4,500
		県補助			
		使用料			
一般財源		214	4,515	5,500	

## 2 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	指標値 (目標値)	H28 実績値
移住相談件数	150 件	0 件
3 世代ファミリー一定住支援 件数	10 件	0 件
マイホーム借上げ件数	7 件	0 件
事業の課題	平成 28 年 12 月からの事業着手となり、周知不足の面もあったため成果として表れることはなかった。今後、制度等の積極的な周知を図っていく必要がある。	

## 3 項目別評価

項目		項目別	総合	評価説明
妥当性	行政が関与すべきか	A	A	全国的に人口減少社会を迎える中、移住・定住人口の促進は重要な課題である。今後、住民ニーズを踏まえつつ、計画に定める事業を円滑かつ確実に実施していく必要がある。
	住民ニーズは高いか	B		
	目的・対象は妥当か	A		
有効性	事業の効果があるか	B	B	
	成果向上の可能性	B		
	長期計画への貢献度	A		
効率性	手段は最適か	B	A	
	低コスト・効率化	A		
	受益者負担は適正か	A		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向				事業の方向性に関する考え
拡充 (増)	○	地域住民		<p>今後は、住民ニーズを踏まえつつ、計画に定める事業を円滑かつ確実に実施していく必要がある。</p> <p>また、町が主体となるばかりではなく、移住・定住コンシェルジュや民間企業とも連携することで、より効果的な施策を推進していく。</p>
		各種団体	○	
継続 (現行のまま継続)		町	○	
継続 (事業改善して継続)		広域		
縮小 (減)		民間	○	
廃止		その他		

部	企画部	課	まちづくり推進課
---	-----	---	----------

地方創生加速化交付金事業評価シート

1 基本事項

事業名	葛城地域観光振興シネマプロジェクト推進事業				
地方創生 総合戦略	<基本目標 3> (1) 活力あふれる産業づくり ③観光・交流の振興 P-13				
事業内容・実績					
○事業内容					
<p>「葛城地域観光振興シネマプロジェクト」は葛城地域観光協議会の5自治体（大和高田市、御所市、香芝市、葛城市、広陵町）及び映画制作委員会からなるプロジェクトである。</p> <p>葛城地域の更なる観光事業の活性化に向けて、地域の魅力を広く発信し、地域全体をPRするツールとして映画制作を行うため、平成28年4月に発足した。</p> <p>葛城地域観光振興シネマプロジェクト事業費 50,000 千円 (5自治体が10,000千円ずつ「葛城地域観光協議会」に負担金として支出。)</p>					
○実績					
① WEB アンケート結果（関東1都3県、近畿2府4県の1200人にネット調査を実施）					
撮影前      公開終了後					
「葛城地域観光振興シネマプロジェクト」の認知率      13.1%      19.7%      +6.6%					
「天使のいる図書館」の認知率      14.5%      24.2%      +9.7%					
② 公開劇場と動員状況（全国11劇場+先行試写会（かぐや姫ホール外4会場） 動員数合計11,008名（H29.2.11～H29.3.3）内先行試写会（H29.2.11. 2.12）1,138名					
③ SNSの反応					
好意的な感想・意見がほとんど。当初目的である知名度向上、観光への興味関心の醸成について一定の効果があつたことがうかがえる。					
事業費 (単位：千円)			H28	H29	H30
	事業費（収入額）		10,000		
	財 源 内 訳	国補助	10,000		
		県補助			
		使用料			
一般財源					

## 2 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	指標値 (目標値)	H28 実績値
町内における先行試写会において、地域の魅力を感じることができた人の割合	80%	96%
事業の課題	映画の公開での盛り上がりを一過性のムードにせず、全国各地の図書館へのDVDの配布や映画制作委員会による有料上映会の実施等、映画を継続的に全国展開し、葛城地域のPRや知名度、魅力度アップ等、観光振興を図り続けていく必要がある。	

## 3 項目別評価

項目		項目別	総合	評価説明
妥当性	行政が関与すべきか	A	A	アンケート結果では葛城地域の魅力度、知名度がUPした。 映画の撮影時にエキストラや婦人会による食事の炊き出し等、ボランティアが参加して住民参加型の映画を製作することができた。 各市町が負担金を出し合って制作したためコスト削減ができた。 民間から出資金、協賛金を募り、映画制作費に充てた。
	住民ニーズは高いか	B		
	目的・対象は妥当か	A		
有効性	事業の効果があるか	A	A	
	成果向上の可能性	A		
	長期計画への貢献度	B		
効率性	手段は最適か	A	A	
	低コスト・効率化	A		
	受益者負担は適正か	A		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向			事業の方向性に関する考え	
拡充 (増)		地域住民 各種団体	○	<p>今後は、葛城地域観光協議会が共同でロケ地巡り(バスツアー)やロケ地巡りスタンプラリー、イベント等を実施することにより葛城地域の魅力をPRする。</p> <p>また、協議会で映画関連グッズを制作し、かぐや姫まつり等の各自治体で開催するイベント等で販売することにより、映画をPRする。</p> <p>更に、本町においては、独自で上映会を開催することにより、町民に郷土の魅力を伝えていく。</p>
継続 (現行のまま継続)		町	○	
継続 (事業改善して継続)	○	広域	○	
縮小 (減)		民間	○	
廃止		その他		

部	事業部	課	地域振興課
---	-----	---	-------

評価基準

評価シートの評価（ABCDE）は下記の基準を目安に内部評価を行っています。

項目		評価の視点
妥当性	行政が関与すべきか	この事業を町が行わなければならないのか
		税金を投入して行うべき事業か
	住民ニーズは高いか	住民に求められている事業であるか
		社会情勢が変化し、事業の必要性が低下していないか
	目的・対象は妥当か	事業の対象・目的は適切か
		事業の対象・目的に改善の余地がないか
有効性	事業の効果があるか	事業の目的が効果的に達成されているか
		廃止・休止した場合、住民生活に多大な影響があるか
	成果向上の可能性	成果を向上させる余地(必要)があるか
		成果向上が期待できない原因は何か
	長期計画への貢献度	事務事業の目的が、町の政策体系に結びついているか
		政策目標実現のため、確実に貢献しているか
効率性	手段は最適か	目的達成のために、他に効率的な方法がないか
		類似事業との統廃合の余地はないか
	低コスト・効率化	事業費を削減できないか
		事業費を削減した場合の影響の有無と問題解決はどうか
	受益者負担は適切か	受益者に対して、適切な負担金を徴収しているか
		不公平感がないか

① 項目別評価 下記を目安に評価しています。

項目		A	B	C	D
妥当性	行政が関与すべきか	積極的に関与すべき	関与すべき	本来関与すべきではない	関与すべきではない
	住民ニーズは高いか	非常に求められている	求められている	まれに求められている	求められたことはない
	目的・対象は妥当か	適切に定められている	概ね適切である	過剰もしくは不足する部分がある	不適切である
有効性	事業の効果があるか	非常に効果的	概ね効果的	効果的でない部分もある	効果的でない
	成果向上の可能性	現状で必要十分である	さらに向上の余地がある	向上させるのは難しい	まったく見込めない
	長期計画への貢献度	大変効果的	効果的	効果があるかわからない	効果を見込めない
効率性	手段は適切か	最適な手法	検討の余地がある	検討する必要がある	手法に問題がある
	低コスト・効率化	最も効率的である	概ね効率的である	改善できる余地がある	もっと効率的な方法がある
	受益者負担は適切か	適切である	概ね適切である	やや適切でない	不適切

② 総合評価 項目別の評価を勘案し、下記を目安に総合評価をしています。

- A：平成28年度どおりの実施が適当
- B：事業の進め方等に改善が必要
- C：事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要
- D：事業の統合、休・廃止の検討が必要
- E：目的を達したため終了

# 地方創生推進交付金事業 検証資料

---

## 目次

### 地方創生推進交付金事業評価シート

- ・「活力あふれるまちづくり」ブランド戦略展開事業・・・ 1 ～ 2
- ・家族のかたちがココに～広陵 Country プロジェクト～・・・ 3 ～ 4
- ・「ほどよく都会 ほどよく田舎」“近畿”で1番魅力ある町！！発信プロジェクト・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5 ～ 6
- 評価基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

地方創生推進交付金事業評価シート（平成28年度採択事業）

1 基本事項

事業名	「活力あふれるまちづくり」ブランド戦略展開事業				
地方創生 総合戦略	＜基本目標3＞（1）活力あふれる産業づくり ②商工業の振興 P-13				
事業内容・実績					
<p>・事業内容</p> <p>広陵ブランドを事業者及び町外の方へ広く周知するため、ブランドロゴを使用したポスターの掲示や県外のイベント等への参加、靴下を着用したタレントによるファッション雑誌への掲載、大阪圏の駅構内（大阪難波駅、大阪上本町駅、布施駅、大和西大寺駅など）においてデジタルサイネージによるPR活動をおこなった。</p> <p>また広陵ブランドを推進する新商品開発の補助を目的とした事業補助や「靴下デザインコンテスト」で表彰を受けた作品の製造及びロゴステッカーの貼付によるブランド新商品を展開し、新たな販路を開拓するためホームページを作成した。</p> <p>○実績</p> <p>・【広陵ブランドPR事業】 事業費 4,776,822円 PR事業に伴う随行旅費：159,360円 靴下の町広陵町ブランドロゴシール：99,360円 PR事業に伴う郵送料：42,552円 広陵ブランドPR事業委託料等：4,440,720円 PR事業物品賃借料：34,830円</p> <p>・【広陵ブランド推進事業】 事業費 1,888,000円 中小企業設備投資補助金：1,888,000円 産学等連携事業補助金：0円 ※申請はあったが、事業が年度内に完了せず、交付に至らなかったため未実施となった。</p>					
事業費 (単位：千円)			H28	H29	H30
	事業費(収入額)		2,176	6,665	1,020
	財 源 内 訳	国補助	1,082	3,194	510
		県補助			
		使用料			
一般財源		1,094	3,471	510	

## 2 重要業績評価指標（KPI）

指標名	指標値（目標値）	H29実績値
繊維業売上高	11,597百万円（H24）	—
従業者数	工業：2,402人	工業：2,408人
事業の課題	※繊維業売上高のRESASによる最新指標が示されていないため、代替数値による検証を実施。 <b>【参考】</b> 繊維工業出荷額 H24：8,655.5百万円 H25：8,464.6百万円 県外を含め広くPRをおこなった広陵ブランドについて、売れる商品を見極め今後の商品展開へと繋げていく必要がある。	

## 3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	B	B	様々なイベントで靴下＝広陵ブランドをPRすることにより知名度を向上させブランド形成を進めることが出来た。 また、新商品開発にあたった設備投資への補助金の活用についても一定の成果があった。
自立性	B		
官民協働	A		
政策間連携	B		
地域間連携	B		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向				事業の方向性に関する考え
拡充（増）		地域住民		ブランドPRにより形成された付加価値のある商品のなかでどういった商品が売れ筋であるのかを検証していく。 また地元企業への就職を促すため高校生や大学生を対象とした就職説明会をおこなうことで、雇用の拡大を図っていく。
		各種団体	○	
継続 （現行のまま継続）		町	○	
継続 （事業改善して継続）	○	広域		
縮小（減）		民間	○	
廃止		その他		

部	事業部	課	地域振興課
---	-----	---	-------

地方創生推進交付金事業評価シート（平成28年度採択事業）

1 基本事項

事業名	家族のかたちがココに ～広陵 Country プロジェクト～				
地方創生 総合戦略	<基本目標 1> (2) 本町への定住・転入の促進 ②定住・転入施策の充実 P-7				
事業内容・実績					
<p>○事業内容</p> <p>生産年齢人口の減少と高齢化率の上昇を迎える中、移住・定住事業や空き家利活用事業、就労支援事業を実施し、社会流入を促進することとしている。</p> <p>平成29年度においては、図書館内に移住・定住サロン（かぐやカフェ）の開設を行い、移住定住コンシェルジュによるワンストップ窓口を設置した。</p> <p>就業支援では、就労希望者に対する支援を行い、定住支援を図った。</p> <p>○実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【移住・定住拠点整備事業】 事業費 4,191,480 円</li> <li>移住・定住サロン（かぐやカフェ）設置費用：3,197,880 円</li> <li>改修工事等：2,175,565 円</li> <li>家具等購入費：1,022,315 円</li> <li>ホームページ更新費用 事業費 993,600 円</li> <li>・【移住者向け就労支援事業】 事業費 4,814,275 円</li> <li>移住者への仕事の確保として、農業及び産業について、就労支援を行った。</li> <li>就農支援事業（農業塾に関する事業経費）：4,814,275 円</li> <li>創業支援事業：0 円</li> <li>※想定していた補助が個人給付になることから補助対象とならないため執行せず。</li> </ul>					
事業費 (単位：千円)			H28	H29	H30
	事業費(収入額)		428	9,005	9,000
	財 源 内 訳	国補助	214	4,403	4,500
		県補助			
		使用料			
一般財源		214	4,602	4,500	

## 2 重要業績評価指標（KPI）

指標名	指標値（目標値）	H29実績値
移住相談件数	150件	17件
3世代ファミリー定住支援件数	10件	8件
マイホーム借上げ件数	7件	0件
事業の課題	3世代ファミリー定住支援は、町ホームページや町公共施設及び町内商業施設、提携の南都銀行による案内ポスターの掲示など周知の結果、28年度0件から29年度8件の実績となった。マイホーム借上げ制度は年3回のマイホーム借上げ説明会を行い、6件の個別相談あり、引き合いはあることから引き続きニーズ喚起を図り、実績に繋げていく。	

## 3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	B	B	全国的に人口減少社会を迎える中、移住・定住人口の促進は重要な課題である。今後、実績のある3世代ファミリー定住支援に加え、計画している起業家支援事業についても円滑かつ確実に実行していく。
自立性	B		
官民協働	A		
政策間連携	A		
地域間連携	D		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向				事業の方向性に関する考え	
拡充（増）		地域住民		移住・定住サロン（かぐやカフェ）の設置により、移住・定住の拠点としてワンストップ窓口を設置できており、民間主導のイベント等から、より効果的な施策を推進していく。 定住支援事業として、企業家支援事業施策について計画とおりに進めていく。	
		各種団体	○		
継続 （現行のまま継続）	○	町	○		
継続 （事業改善して継続）		広域			
縮小（減）		民間	○		
廃止		その他			

部	企画部	課	企画政策課
---	-----	---	-------

地方創生推進交付金事業評価シート（平成29年度採択事業）

1 基本事項

事業名	「ほどよく都会 ほどよく田舎」“近畿”で1番魅力ある町!!発信プロジェクト				
地方創生 総合戦略	＜基本目標1＞（2）本町への定住・転入の促進 ②定住・転入施策の充実 P-7				
事業内容・実績					
<p>○事業内容</p> <p>地方創生加速化交付金事業（すむ・奈良・ほっかつ！～移住プロジェクト～）でインスペクションを実施した空き家に対して利活用調査を行った。</p> <p>今後は、包括協定締結民間事業者（近鉄不動産）との協働により、住宅を売却又は貸出ししたい方等を対象に住宅相談会を実施し、住宅ストックファイルを作成する。移住希望者となる方にプロモーションを実施し、町の良さを効果的にPRするために空き家等を活用した体験型ツアーを開催する。</p> <p>○実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【インスペクション実施空き家利活用調査】 事業費 199,962 円 空き家利活用調査委託 199,962 円</li> <li>・【移住定住者向けの民間活用空き家バンクホームページ開設費用】 事業費 299,970 円 ホームページ開設委託 299,970 円</li> <li>・【移住促進基本構想策定費用】 事業費 0 円 予算額 3,000,000 円を平成 29 年度見込んでおり、2 年目事業（平成 30 年度事業）戦略策定の基礎となる基本構想とする予定であったが、プロモーション、マーケティング及びターゲットニング計画の基本構想がまとまらず、繰越事業となった。 ※平成 30 年度に繰越</li> </ul>					
事業費 (単位：千円)			H29	H30	H31
	事業費(収入額)		498	24,300	13,200
	財 源 内 訳	国補助	249	12,150	6,600
		県補助			
		使用料			
一般財源		249	12,150	6,600	

## 2 重要業績評価指標（KPI）

指標名	指標値（目標値）	H29 実績値
新規転入者数（年間）	1,357 人	1,119 人
農産物販売金額（総額）	70,000 万円	—
町内イベント開催数（年間）	5 回	0 回
事業の課題	新規転入者数は、平成 27 年度 1,357 人から比較して 238 人減少となっている。当該事業は初年度であり、具体的な施策をとおして達成を図っていく。農産物販売金額（総額）は、RESAS の最新指標が示されておらず。町内イベント開催数は 0 回であるが、平成 30 年度は、図書館での「はぐマルシェ」イベント等開催できており、効果的な事業展開を図る。	

## 3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	B	B	実施済みのインスペクション（住宅診断）物件に対しての後追い調査や、民間活用空き家バンク HP 開設より、移住・定住に向けた土台づくりを行った。新規就農移住者への支援など政策間連携も踏まえた事業展開を推進する。
自立性	B		
官民協働	A		
政策間連携	A		
地域間連携	B		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向				事業の方向性に関する考え
拡充（増）	○	地域住民		平成 29 年度繰越していた移住促進基本構想について、平成 30 年度実施見込みであり、移住者への農業支援、竹取公園イベント用ステージ製作などのハード事業を展開していく。効果的なプロモーション、マーケティング及びターゲティング計画を図ることで、事業成果による KPI 達成を目指す。
		各種団体	○	
継続 （現行のまま継続）		町	○	
継続 （事業改善して継続）		広域		
縮小（減）		民間	○	
廃止		その他		

部	企画部	課	企画政策課
---	-----	---	-------

平成30年度 地方創生推進交付金の評価の基準等について

評価シートの評価（S、A、B、C、D）は下記の基準を目安に内部評価を行っています。

評価項目	評価方法					評価のポイント
目指す将来像及び課題の設定 KPI設定の適切性	S	A	B	C	D	地方創生として目指す将来像が適切に設定されており、そこに至るまでの現状の構造的な課題が、定量的な分析により明らかにされていること。また、交付対象事業が、構造的な課題の解決に寄与し、目指す将来像の実現に資する蓋然性が認められること。 ① 「客観的な成果」を表す指標であること ② 事業との「直接性」のある効果を表す指標であること。 ③ 「妥当な水準」であることに沿ったKPI設定であること。 ④ 随時の成果、進捗管理が可能なタイムリーに集計・評価可能な指標であること。
自立性	S	A	B	C	D	事業を進めて行く中で、「稼ぐ力」が発揮され、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に行政からの補助金等に頼らずに、事業として自走していくことが可能となる事業であること。 【留意点】 ・自主財源の推移による自立化見込み。 ・当該事業が対象とするマーケットイン（顧客重視）に基づき成果物を設定しているか。
官民協働	S	A	B	C	D	地方公共団体のみでの取組ではなく、民間と協働して行う事業であること。また、単に協働するにとどまらず、民間からの資金（融資や出資など）を得て行うことがあれば、より望ましい。 【留意点】 ・行政、民間事業者、研究機関、大学等の役割分担が明確であること。 ・自立に向け、どのように行政の役割分担を縮小し、民間事業者等の役割分担を拡大するかが明確であること。
政策間連携	S	A	B	C	D	一つの政策目的を持つ単純な事業ではなく、複数の政策を相互に関連づけて、全体として、地方創生に対して効果を発揮する事業であること。また、利用者から見て意味あるワンストップ型の窓口等の整備を行う事業であること。 【留意点】 ・分野横断的な政策間連携を実施することで、生まれる相乗効果が明確であること。 ・行政内部において政策の横連携が取れていること。 ・ワンストップ化については具体的な利用者メリットが十分にあること。
地域間連携	S	A	B	C	D	単独の地方公共団体のみでの取組ではなく、関係する地方公共団体と連携し、広域的なメリットを発揮する事業であること。 【留意点】 ・連携内容（役割分担や事業執行体制）が具体的であり合理性があること。 ・連携することにより生まれる相乗効果が明確であること。

S：非常に妥当性あり A：概ね妥当性あり B：妥当性あり D：改善必要性あり E：効果見込めない

総合評価	○総合評価の目安は以下のとおりである。	
総合評価は「S」、「A」、「B」、「C」、「D」の5段階で判定する。	S	「目指す将来像及び課題の設定等、KPI設定の適切性」が「B」以上であり、「自立性」、「官民協働」、「政策間連携」、「地域間連携」全ての項目が「A」評価以上である場合。
	A	「目指す将来像及び課題の設定等、KPI設定の適切性」、「自立性」、「官民協働」、「政策間連携」及び「地域間連携」全ての項目が「B」評価以上であり、かつ、そのうち3項目以上が「A」評価以上である場合。
	B	「目指す将来像及び課題の設定等、KPI設定の適切性」が「B」評価以上であり、「官民協働」、「政策間連携」、「地域間連携」のうち2項目が「B」評価以上である場合。
	C	「目指す将来像及び課題の設定等、KPI設定の適切性」が「C」評価以上、「自立性」が「C」評価以上、かつ、「官民協働」、「政策間連携」、「地域間連携」のうち1項目が「B」評価以上である場合。
	D	「S」評価、「A」評価、「B」評価、「C」評価のいずれにも該当しない場合。

## 総合戦略効果検証シートに対する意見及び回答

### 【全体】

#### 【意見】

資料作成について、今年度は目標値、達成率のいずれか変更していいのでは。理由は現状分析のコメントは、コロナ禍が大半を占めると思われます。

#### 【回答】

委員ご指摘のとおり、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により多くのイベントや事業が中止となりました。そのため、令和2年度のKPIの目標値に対する達成率は低くなることが予想されますが、この目標値と達成率は、令和3年度を終期とするため変更することができません。

#### 【意見】

検証シート、検証資料については、もっと簡潔にすべきで、一覧表にし、対比（前年、過去）を行って設定項目の動向を周知すべきであります。そして設定項目を集約すると共に選択と集中を行うべきです。

#### 【回答】

今年度については検証委員会を書面開催としたことから、資料の中で事業を詳細に説明する必要があり、文量が多くなってしまいました。今後は、委員ご指摘のとおり一覧表や比較表にするなど、見やすく理解しやすい表現方法に改善します。

#### 【意見】

広陵町は住みやすい町だと他の住人から聞いています。細かいことでも分析と報告を行っている結果だと感じました。効果がない事業に関してもすぐに廃止できるのもそういった要因によるものと感じます。ぜひとも継続して欲しいです。

#### 【回答】

新型コロナウイルス感染症の影響による経済の悪化や少子高齢化による税収減など、これからの自治体の財政はますます厳しさを増してきます。これまでと同じ事業をするのではなく、数値目標や事業達成のために費用対効果を分析した上で、より少ない費用で住民サービスが向上するように施策を進めていきます。

## 【資料 1】

### ○基本目標 1 P 4 一人一日当たりのごみ排出量

#### 【意見】

ごみ排出量については、平成 28 年度に削減が実現したものの、平成 29 年度から令和元年度にかけて再び増加している。また令和 2 年度については、コロナ禍により在宅の機会が増えたことを主因に、ごみ排出量の更なる増加が予想される。以上のことから目標達成に向け、今一度町内で 3 R（リデュース・リユース・リサイクル）運動を促進して事業所や住民の理解を深め、削減に取り組む必要があると考える。

#### 【回答】

住民に買い物でのレジ袋を購入せずエコバッグを携帯してもらい、少しでもプラスチックごみの削減となるよう周知していきます。また、リフューズ（レジ袋を「断る」ことなど）、リデュース、リユース、リサイクルといった 4 R 運動を推奨していき、広報紙・ホームページにて住民をはじめ、多くの方に周知を行い、プラスチック製品がごみとならないように呼びかけていきます。

### ○基本目標 1 P 4 花いっぱい運動

#### 【意見】

- (1) 数地区モデル地区を設け、そこには補助金（例えば 5 万円）を支給、活動結果を報告してもらい、順次地区を変え、モデル地区を指定し、運動の定着を図る。
- (2) 花いっぱい運動がそれほど普及しない要因は、最近の住宅事情にも影響されると思われる。一家に自家用車を 2～3 台所有される家が増えたことにより、花壇から駐車場に変わりつつあることも増加しない要因の一つと推測される。花いっぱい運動に参加される地区は、プランターと花を各戸配布されていることが多い。しかし、プランターは傷むと廃プラとなってダイオキシン類などの大気汚染の原因となる。そこで生分解プランターの使用を勧めてはどうかと思う。装飾性、耐久性の検討や価格面での費用対効果等の分析課題はある。身近に花があることは、季節感を味わい、心を癒やし、心を豊かにする効果がある。

#### 【回答】

花いっぱい運動は、毎年、一定の地域のみ申請を受けているのが現状です。委員のご意見のとおり、地域を限定するか、町の花「ひまわり」に限定し、馬見丘陵公園の「ひまわりウィーク」とコラボするなど、SNS を活用した町のプロモーションとして花いっぱい運動の展開を図ります。また、植木鉢等の資材は経費対象のため、生分解性プランターも交付金を用いて購入可能となりますので、今後は生分解性プランターを地域へ推奨することを検討していきたいと考えています。

## ○基本目標 1 P 5 消防・防災の充実

### 【意見】

感震ブレイカー設置補助の広報での周知と各自治会への申請に関することの回覧の充実をお願いします。

### 【回答】

地震による火災を防ぐには、感震ブレイカーの設置が有効です。今後起こる地震への対策として、各家庭に感震ブレイカーを設置いただくことは大変重要と考えており、今後も広報紙やホームページで補助金制度の周知を行います。

また、平成30年度から5か年計画で、住宅密集地域における感震ブレイカー設置を推進しています。各年度一大字を選定して地元説明を行い、大字には回覧にて周知を行っていただいています。引き続き、住宅密集地域が存在する大字を選定して、地元大字の協力のもと補助事業の周知を行っていきます。

## ○基本目標 1 P 6 防犯・交通安全の充実

### 【意見】

防犯カメラの設置をもっと広めることと「カメラ作動中」の看板の周知の充実を。抑止力や不審者の割り出しにつながると思う。

### 【回答】

各大字・自治会が要望される箇所に、より効果的に防犯カメラを設置できるよう警察とも協議の上、地元にて設置工事を行っていただき、その費用に対して町が補助金を交付しています（補助内容＝設置費用の半額補助で、上限20万円まで）。

「カメラ作動中」の看板につきましては、カメラ設置時に付設しています。これについては、今後、広報紙・ホームページにて住民をはじめ、多くの方に周知を行い、防犯カメラを活用した安全な町をPRします。

## ○基本目標 1 P 7 定住・転入施策の充実

### 【意見】

空き家の利活用促進のために、マイホーム借り上げ制度の相談件数が目標値として、設定されている。しかも、その利用件数が少ないために、事業の終了が決められている。

目標の指標を変える必要はないか。

空き家問題は、次のようなステージでそれぞれ対策する必要がある。

まず、空き家の発生を抑える。

高齢者(特に単身世帯)の住宅を自治会等(近隣)で把握できるような仕組みをつくる。

高齢者が施設等に入所した場合、空き家の処遇に対する意向確認ができるように、血縁者や相続権者の所在を確かめておく必要がある。

次は、空き家が発生した場合は、放置されるのを防ぐ。

空き家は放置される期間が長くなるほど、近隣に対して悪影響をもたらす。また、再利用するための費用も多くかかる。

さらに、空き家の再利用を進める。

新築の建物より、費用が安く、快適に(スローライフ)住めることをイメージづける。

空き家を改修する費用がわからない、古い建物が融資を受ける際の担保になりにくいなど、空き家の利活用を進めるうえでの障害を官民の協働で乗り越えることが必要になる。

また、利活用されて、成功した事例をつくり、広報することも、重要になる。空家バンクなどの立上げも必要か。

空き家の利活用を進めるための指標は、利活用された成功事例の数ではないだろうか。

調整区域に新しい宅地や住宅を安易につくるのではなく、既成市街地内(旧集落も真美ヶ丘も)の空家や空地进行建替えや増改築、模様替えに誘導できたかどうかを指標になるべきではないだろうか。

### 【回答】

空き家対策について、町内で活用できる空き家の把握が難しいことにあります。シェアハウスとして活用できる空き家というのは、状態も良く、中古物件として民間の流通にのせた方が、迅速に、また、手軽に契約できることから、そういった空家の情報が行政にもたらされなかったことが一因です。また、平成29年度に「広陵町空家等対策計画」を策定し、増加する空き家の対策について施策を検討していましたが、民間の活発な不動産流通に期待し、民間でできることは民間で行ってもらうことで、行政としては「特定空家」など、住環境の悪化や危険を防止するための施策に重点を置いているところです。

今後は、次期総合戦略を策定する中で、空き家の利活用施策について、再度町として検討したいと考えています。

## ○基本目標 1 P 8 クリーンキャンペーン

### 【意見】

町内一斉清掃の住民参加の徹底を図る。地区ごとに一斉清掃時、欠席者に罰金（例えば3,000円）を徴収し、地区会計の収入とする。自らきれいにするという意識の醸成が大切。

### 【回答】

クリーンキャンペーンについては、県や町が地域に呼びかけ、あくまでボランティア活動として住民のみなさんに参加いただいているものです。

意見にある「欠席者に罰金を徴収し、地区会計の収入とする。」というのは、各自治会活動における清掃活動のことと思われます。罰金（出不足料）の有無については、各自治会で判断され、運用されています。

## ○基本目標 2 P 14 保育所入所について

### 【意見】

待機児童はいないが、第一希望の園に入れられない児童がいるということだが、兄弟で同じ園に入れられないということがないように、今後も配慮をお願いしたい。

### 【回答】

兄弟姉妹の同一保育所に入所させるための転園や新規入所で兄弟姉妹（卒園児を除く。）が既に入所している保育所を希望する場合、新規入所で兄弟姉妹（双子等を含む。）が同時に同一保育所を希望する場合に、保育所選考における優先的な配慮をしており、今後も広陵町保育所入所選考等に関する要綱に基づき適切な利用調整に努めます。

## ○基本目標 2 P 14・15 子育て包括支援センターについて

### 【意見】

(1) 子育て包括の実施はとても良いことだと思う。発達障害や不登校などの問題を抱えた親子にも、安心して子育てしてもらえて、子どもも次分の居場所や活躍できる分野を見つけられるような制度や施設を紹介していけるように、提供できるものをたくさん増やしてほしい。足を運ぶことが難しい人にはオンラインでの相談もできるようにしてほしい。

(2) どの分野においてもほぼ目標達成がされていると思いました。気になった点としては、P 14の地域子育て支援拠点事業実施が「C」である部分です。広報の方法を考える必要があります。

**【回答】**

保育コンシェルジュを配置し、こども課窓口やなかよし広場等で保護者の子育てに関する不安、悩みの解消や助言をしています。来訪することが難しい人には、電話で対応していますが、ニーズ把握をしながらオンライン等での対応も検討していきます。また、町内幼稚園や保育園で行われている、未就園児と保護者が参加できる子育て支援情報の紹介もしています。今後も関係各所との連携を密にし、子どものための制度や施設に関する情報の収集や発信に努めていくこととします。

**○基本目標 2 P 1 5 学校教育の充実****【意見】**

学校支援ボランティアについて

ボランティアの登録数はかなり増えてきたとのことだが、学校のニーズを聞いて、分野に偏りがないように募集してほしい。そしてできれば倫理や個人情報保護などの研修も受けていただいてから登録してほしい。中学校では、部活動の指導やICT教育のプロに登録をお願いしたい。

**【回答】**

ご意見のとおり、学校支援ボランティア登録者数は増加傾向にありますが、活動を希望される内容の多くは、登下校の見守りです。

そのため、今後は登録者数の確保とともにニーズに合う人材確保に向け、学校と協議し、募集方法についても検討したいと考えます。

なお、中学校においては、部活動指導員を雇用し指導にあたっていただいています。ICT分野においては、ICT支援員の雇用検討をしています。

**○基本目標 2 P 1 5 学校教育の充実****【意見】**

体力・運動能力向上について

そもそも、ボールを使って遊ぶ場所が少ない。体育の授業力向上には、小学校も音楽などのように体育の授業を専門教科にして専任教員が指導するとか、大学高校の体育科との連携とかもいいと思う。しかし一方で、子どもの生活も多様化しているので、運動能力を上げる必要性については、それほど重要であるとは思えない。

まずは、未就学児の頃から身体を動かして遊ぶ楽しさを体感させたり、いろいろなスポーツを体験できる教室や場所の提供、イベントの開催などを安価で利用できるようにして、運動能力の向上につながればいいと思う。

**【回答】**

毎年、子どもたちの体力調査を実施しており、実施時には、大和広陵高校の体育科で学んでいる生徒に来てもらい、子どもたちに手本を見せてもらったり、コツを指導してもらったりするなどの取り組みを実施しています。また、中学校の体育専科教師が、その校区内の小学校へ出向き、児童に直接指導をしたり、教職員に研修をしたりするなど、体力向上に向けて取り組んでいるところです。毎年の体力調査の結果を分析し、各校の平均値を下回っている項目を取り上げ、授業の前に関連する運動を導入することなど、具体的な例を提示しています。

中学校の部活動においては、外部講師を雇用し、特定の部ではありますが、その専門性を活かして、生徒の意欲と技術の向上に努めています。今後も、関係機関や地域の方々も活用し、児童生徒の体力向上につながる取り組みを進めていきたいと考えます。

また、奈良県教育委員会事務局保健体育課から示されている「幼児を夢中にさせる運動遊びプログラム」や「おうちで体力アップカード」などを紹介し、未就学児期から、親子でいろいろな運動遊びに楽しくチャレンジできるようにしていきたいと考えます。

加えて、新型コロナウイルスの感染防止対策をとりながら、活動場所の提供やイベント開催などについてもしっかりと検討していきたいと考えます。

**○基本目標 3 P 2 3 観光・交流の振興****【意見】**

「かぐや姫まつり来場者数」については、今年度は中止となるも、昨今希薄化しつつあるふれあいの場を地域住民に提供することや、外部から観光客を受け入れ、外資を稼ぐ面からも開催は有意義であると考えます。また、竹取公園への訪問者を日常的に増加させる手段として地元の飲食店などを誘致し、開設することも有効と考える。

**【回答】**

竹取公園周辺の集客については、奈良県営馬見丘陵公園との連携協定の中で、飲食店の誘致を検討しています。イベントについても馬見丘陵公園とさらなる連携をしていきたいと考えています。

**【意見】**

(1) 創業前の支援と同じく創業後のフォローアップも重要である。「KoCo-Biz」に大いに期待する。協力も図りたい。

(2) 事業所数と従業者数については、実態の把握が難しいが、コロナ禍により倒産・廃業件数が増加することが懸念される。また、それに伴い、従業者数の減少も併せて懸念される。こうした局面において、今後の事業所数や従業者数の維持・増加のためには、なりわい（一般社団法人広陵町産業総合振興機構）の役割が非常に重要であり、来年設立予定の「KoCo-Biz」と合わせて活躍に期待したい。南都銀行としても広陵町の産業振興に向けて金融の側面から最大限協力させていただきたいと考える。

広陵町中小企業・小規模企業振興基本条例の制定に当たっては、ワークショップに多くの関係者が参加し活発な議論が展開された。広陵町としての産業振興の方向性を本条例で示すことができている、今後も広く関係者を巻き込んだ迅速な現状把握と意見集約に注力することで、まとまったコンセンサスをもとに、斬新な施策の展開を期待したい。

広陵町の主要産業である靴下産業はコロナ禍で大きな影響を受けており、日本が誇る靴下産業クラスターは、存続の危機と言っても過言ではない。ワークショップ等で生の声は集まっているので、この危機をなんとか乗り越えるべく迅速で機動的な施策展開が当面の最重要課題ではないかと考える。

**【回答】**

現在、南都銀行、大和信用金庫及び奈良中央信用金庫がビズ運営協議会に参画していただいています。日本政策金融公庫の参画もぜひお願いしたいと考えています。

また、コロナ禍における靴下産業への支援として、「なりわい」によるマスクの買い取り及び全戸配布、事業継続支援金の交付を実施していますが、ワークショップ等で挙げられた意見では商品の販路開拓やブランド価値の向上による売上確保を望む声が多いことから、現在、商工会及び近畿経済産業局と連携し、「広陵くつした」の地域団体商標登録に向けたブランディング実践事業を実施していきます。

今後は、本年12月に開設予定の「KoCo-Biz」による支援とあわせて、町内の靴下事業者における販路開拓及び情報発信を後押ししていきたいと考えています。

#### ○基本目標 4 P 3 5 コミュニティの育成

##### 【意見】

協働のまちづくり提案事業補助金について

吉野町では毎年10件を超える応募があり、総額200万円の補助金をどのように分配するかが問題になる。

広陵町で応募が少ないのは、まちが住みやすく、まちづくりをする必要を住民が感じていないのであろうか。あるいはベッドタウン化して、住民同士のつながりが希薄になっているためであらうか。

住民によるまちづくりを誘導することが必要だろう。

##### 【回答】

令和元年度は、初年度で周知が十分でなかったこと、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により応募、採択件数が少ない状態でした。今後は、地域やボランティア団体からの要望や要請があった場合に、この補助制度を活用してもらうよう直接的に周知を行っていきます。

## 【資料 2】

### ○地方創生推進交付金「ほどよく都会ほどよく田舎」

#### 【意見】

「基本目標 1（2）本町への定住・転入の促進②定住・転入施策の充実」と事業内容・実績の一貫性が必要かと思いました。事業内容に農業推進が書かれているので、「基本目標 3」の P 2 2 の事項等、目標に加えるべきかと思いました。

#### 【回答】

近畿で一番魅力ある町！を目指して、最終的には移住・定住する人たちを増加させる目標のもと、事業を行いました。さまざまなイベントの実施や民間事業者との連携により、町の魅力発信を行った一方で、移住・定住につながったかを測る指標がなかったため、効果が不明な部分もありました。この交付金事業の反省を踏まえ、今後は、民間事業者を中心とした魅力発信における支援を続けていきます。

農業推進については、P 2 8 の「農産連携支援事業」や「地域ブランドの創出」などに実績、今後の課題などを記載しています。

#### 【意見】

広陵町プロモーションビデオ制作について

Y o u T u b e で検索しても見つからなかった。良い P V ができたのなら結婚情報誌や住宅探しのサイトなどからアクセスしやすくするなど、人目のつきやすいように工夫すべき。

#### 【回答】

プロモーションビデオについては、Y o u T u b e での視聴、役場窓口のデジタルサイネージでの視聴、イベント等での活用を予定しています。

委員のご指摘どおり、人目に付きやすいよう工夫していきたいと考えています。

#### 【意見】

移住・定住コンシェルジュについて

移住・定住サロン「かぐやカフェ」に移住等について113件の相談実績があったことは、潜在的な需要があることの表れであり、継続すると成果につながると考える。ただし、相談が最終目標ではないので、相談だけで終わることなく、今後実際の「移住・定住」あるいは町内での起業等の実際のアクションへと発展させていく必要がある。そのためには、なりわいやKoCo-Bizとの有機的連動によって、かぐやカフェの機能を最大限効果的に活用することが重要と考える。

#### 【回答】

相談実績については、かぐやカフェがオープンしてから徐々に増えています。ご指摘のとおり、今後はなりわいやKoCo-Bizにおける事業に期待しつつ、事業間連携し、移住・定住または起業につながるよう取り組みたいと考えています。

# 地方創生推進交付金・地方創生拠点整備交付金 事業検証資料

## (地方創生推進交付金)

- ・平成30年度～令和2年度 事業

企業振興条例に基づく「広陵町産業総合振興機構」設立による各産業分野の雇用創出事業

P 1～P 2

- ・令和2年度～令和4年度 事業

ビジネスサポートセンター創設による「地域活性化」推進計画

P 3～P 5

## (地方創生拠点整備交付金)

- ・令和元年度補正 事業

はしお元気村地域マルシェ整備事業

P 6～P 7

令和3年7月  
広 陵 町

地方創生推進交付金事業評価シート（平成30年度採択事業）

1 基本事項

事業名	企業振興条例に基づく「広陵町産業総合振興機構」設立による各産業分野の雇用創出事業									
地方創生 総合戦略	基本目標P12〈基本目標3〉活力あふれるまちづくり (1) 活力あふれる産業づくり全般									
事業内容・実績										
<p>当該機構は「町をまるごと商品化」をコンセプトに、すべての産業の課題解決のための事業を展開するとともに、自らに商社的機能を持たせ、自立することを目指す。</p> <p>&lt;令和2年度実施した具体的事業&gt;</p> <p>令和2年3月に当該機構は設立し、地域産業の育成や農業振興、観光振興を図るため様々な事業（ECサイトや実店舗、イベント等における地場製品の販売や町内で生産された農産物の販売先確保など）を実施したことから、町から機構に事業実績に基づき補助金を交付した。</p> <p>また、当該機構における事業収支や実施事業の内容を検証し、令和3年度以降の自立に向けた見直しを図るため、一般財団法人南都総合研究所に事業検証のコンサルティング業務を委託した。</p> <p>○実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「広陵町産業総合振興機構」</li> </ul> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">事業実施検証支援コンサル 委託料</td> <td style="text-align: right;">3,080,000 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">・広陵町産業総合振興機構 補助金</td> <td style="text-align: right;">10,000,000 円</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">(合計)</td> <td style="text-align: right;">13,080,000 円</td> </tr> </table>					事業実施検証支援コンサル 委託料	3,080,000 円	・広陵町産業総合振興機構 補助金	10,000,000 円	(合計)	13,080,000 円
事業実施検証支援コンサル 委託料	3,080,000 円									
・広陵町産業総合振興機構 補助金	10,000,000 円									
(合計)	13,080,000 円									
事業費 (単位：千円)		H30	R1	R2						
	事業費(収入額)	5,413	12,102	13,080						
	財 源 内 訳	国補助	2,707	6,051	6,540					
		県補助								
		使用料								
一般財源		2,706	6,051	6,540						

## 2 重要業績評価指標（KPI）

指標名	指標値（目標値）	R2実績値
機構にて創出した産業連携コンテンツの売り上げ	500千円	1,335千円
当町への訪問者数の増加 （馬見丘陵公園・竹取公園周辺のRESAS人口流動メッシュ分析合計ベース（ピーク月））	2,000人	0人（増加せず）
機構が設置するWEBサイト年間アクセス数	300回	0
事業の課題	目標値の3については、新型コロナウイルス感染拡大に伴う支援事業を当該機構が受託したことにより、WEBサイトの立ち上げは令和3年3月末となったことから、目標値を達成していない。	

## 3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	B	A	当機構が設立されたことにより、産業・農業・観光の支援を迅速に行うこと、地域課題の解決や新型コロナウイルス対策をより効果的なものとすることができた。 また、ふるさと納税における返礼品管理等で培ったノウハウを活かした地場産品、農産物の販売や販路開拓、協定を締結する市町村との連携により、官民協働や地域間連携につながる事業が実施された。
自立性	B		
官民協働	A		
政策間連携	A		
地域間連携	A		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向	事業の方向性に関する考え	
拡充（増）		令和2年度にて、地方創生推進交付金の計画期間は終了となることから、今後は当該機構が自立した運営を行っていく。 このため、地域課題の解決等において連携が必要となる事業や取組については、他の民間企業と同様に業務委託等を行った上で、当該機構と適宜実施していく。
継続 （現行のまま継続）		
継続 （事業改善して継続）	○	
縮小（減）		
廃止		

部	事業部	課	地域振興課
---	-----	---	-------

地方創生推進交付金事業評価シート（令和2年度採択事業）

1 基本事項

事業名	ビジネスサポートセンター創設による「地域活性化」推進計画														
地方創生 総合戦略	基本目標P12〈基本目標3〉活力あふれるまちづくり (1) 活力あふれる産業づくり全般														
事業内容・実績															
<p>地域産業の活性化を図るため、町内の中小企業・小規模企業の多くが課題として抱える販路開拓や情報発信などについて、幅広いスキルを有した人材による伴走型支援を実施するビジネスサポートセンターの設立を行うとともに、当センターと連携した支援事業を実施する。</p> <p>&lt;令和2年度実施した具体的事業&gt;</p> <p>令和2年5月上旬より、ビジネスサポートセンターのセンター長となる人材を確保するため、新聞や民間求人サイトを活用した募集を開始し、6月から8月中旬にかけて書類選考及び面接を経た後、8月下旬に現在のセンター長を選定した。</p> <p>その後、令和2年10月よりセンター長は2ヶ月間の研修期間を経た後、町内事業者への周知を図るため研修会及びオープニングシンポジウムを開催し、令和2年12月8日にビジネスサポートセンターを開設した。</p> <p>なお、当センターの運営やセンター長、事務局員の募集、研修、雇用及び研修会、オープニングシンポジウムの開催に関しては、一般社団法人広陵町産業総合振興機構に運営業務及び支援業務を委託の上、実施した。</p> <p>また、ビジネスサポートセンターを活用した町内企業の新商品開発を支援するため、試作品の製作に係る経費を対象とした補助金事業や農業分野における人材育成を図るため、「農業塾」を昨年度に引き続き開講した。</p> <p>○実績</p> <table border="0"> <tr> <td>・ビジネスサポートセンター設立に係る支援 委託料</td> <td style="text-align: right;">2,060,122 円</td> </tr> <tr> <td>・事務局員採用に係る支援 委託料</td> <td style="text-align: right;">314,800 円</td> </tr> <tr> <td>・研修会開催に係る講師謝礼 報償費</td> <td style="text-align: right;">236,120 円</td> </tr> <tr> <td>・ビジネスサポートセンター運営業務 委託料</td> <td style="text-align: right;">6,463,800 円</td> </tr> <tr> <td>・試作品の製作に係る経費補助 補助金</td> <td style="text-align: right;">300,000 円</td> </tr> <tr> <td>・農業塾長給与 給料</td> <td style="text-align: right;">3,000,000 円</td> </tr> <tr> <td>(合計)</td> <td style="text-align: right;">12,374,842 円</td> </tr> </table>		・ビジネスサポートセンター設立に係る支援 委託料	2,060,122 円	・事務局員採用に係る支援 委託料	314,800 円	・研修会開催に係る講師謝礼 報償費	236,120 円	・ビジネスサポートセンター運営業務 委託料	6,463,800 円	・試作品の製作に係る経費補助 補助金	300,000 円	・農業塾長給与 給料	3,000,000 円	(合計)	12,374,842 円
・ビジネスサポートセンター設立に係る支援 委託料	2,060,122 円														
・事務局員採用に係る支援 委託料	314,800 円														
・研修会開催に係る講師謝礼 報償費	236,120 円														
・ビジネスサポートセンター運営業務 委託料	6,463,800 円														
・試作品の製作に係る経費補助 補助金	300,000 円														
・農業塾長給与 給料	3,000,000 円														
(合計)	12,374,842 円														

事業費 (単位：千円)			R 2	R 3 (予定)	R 4 (予定)
	事業費(収入額)		12,374	22,400	22,400
	財 源 内 訳	国補助	6,187	11,200	11,200
		県補助			
		使用料			
一般財源		6,187	11,200	11,200	

## 2 重要業績評価指標 (K P I)

指標名	指標値 (目標値)	R 2 実績値
支援による創業件数	1 件	4 件
支援による商品開発件数	1 件	14 件
支援による課題解決件数	3 件	27 件
ビジネスサポートセンターの相談件数	50 件	109 件
事業の課題	<p>令和 2 年 1 2 月の開設以降、相談件数については予約枠のほぼ全てが埋まる状況となっており、リピート率も約 7 割に達することから、相談者の満足度も高いと判断される。</p> <p>今後については、新規の相談者や創業に関する相談を増加させるため、更なる P R を推進するとともに、広陵町及び大和高田市以外の事業者が相談可能となるよう、近隣市町に費用負担を求める取組を実施する。</p>	

## 3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	A	A	<p>ビジネスサポートセンターが設立したことにより、これまで町内の小規模な事業者の大部分が抱える課題であった販路開拓や自社の情報発信に関して、最小限の経費で実践するための相談を無料で行うことが可能となった。</p> <p>また、本事業は大和高田市と協同で実施していることから、両市町の事業者が連携した商品の開発が期待される。</p>
自立性	B		
官民協働	B		
政策間連携	A		
地域間連携	A		

#### 4 今後の事業の方向性

今後の方向		事業の方向性に関する考え
拡充（増）		<p>令和2年12月の開設以降、相談件数については順調に増加しており、現在では1ヶ月先まで予約に空きがない状況であることから、町内の事業者からニーズが高いと思われる。</p> <p>今後は、ITに関連する相談について、より専門的な知識が必要となることが想定されるため、専門家による相談機会を設けることで、様々な相談内容に対応できる体制を整備していく。</p> <p>また、ビジネスサポートセンターと連携した支援事業については、事業者の売上向上につながる新規性や独創性の高い商品開発を支援する補助金等の制度づくりを検討する。</p>
継続 (現行のまま継続)	○	
継続 (事業改善して継続)		
縮小（減）		
廃止		

部	事業部	課	地域振興課
---	-----	---	-------

地方創生推進交付金事業評価シート（令和元年度補正採択事業（事業は令和2年度に実施））

1 基本事項

事業名	はしお元気村地域マルシェ整備事業			
地方創生 総合戦略	基本目標P12〈基本目標3〉活力あふれるまちづくり (1) 活力あふれる産業づくり全般			
事業内容・実績				
<p>これまでの朝市は屋外であったことから販売環境が安定せず、強風や大雨の際には、販売を中止せざるをえなかった。そこで、既存の朝市を発展させるとともに、これまでの販売品に加え、休耕地活用をメインに活動している民間団体である「健楽（けんぎょう）農業」と連携し、通年を通して商品を提供できる施設を整備した。加えて、外部テラス席（オープンスペース）などを整備した。</p> <p>農産品に加え、町の特産品（靴下など）や子どもが集うような駄菓子など全般を扱う予定であり、農業に限らず全ての産業の底上げが期待される。また、あらゆる世代が訪れる地元密着型店舗として、地域コミュニティの拠点としても位置付けている。</p> <p>マルシェの販売主体は、はしお元気村の指定管理者である「広陵いきいきプロジェクト」が担っている。</p> <p>○実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はしお元気村地域マルシェ整備工事費 19,972,700 円（拠点整備交付金分） 386,100 円（推進交付金分）</li> </ul> <p>（合計） 20,358,800 円</p>				
事業費 (単位：千円)			R 1（補正）	/
	事業費(収入額)		20,359	※単年度事業
	財 源 内 訳	国補助	10,179	
		県補助		
		使用料		
一般財源		10,180		

## 2 重要業績評価指標（KPI）

指標名	指標値（目標値）	R2実績値
はしお元気村マルシェ（朝市）の売り上げ	9,317 千円	—
はしお元気村マルシェ（朝市）の来店客数	11,298 人	—
事業の課題	マルシェのグランドオープンが令和3年4月9日であったため、令和2年度中の実績がない。	

## 3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	B	B	はしお元気村は、福祉及び健康増進の拠点及び北かぐやこども園が隣接しており、地域のあらゆる世代が集まっている。そのため、地域コミュニティの拠点及び地場産品の販売の場として、整備しており、販売額が増加していくことで、今後はまちの新たな魅力を創出できると考える。
自立性	B		
官民協働	A		
政策間連携	B		
地域間連携	A		

## 4 今後の事業の方向性

今後の方向	事業の方向性に関する考え	
拡充（増）		整備事業は単年度で終了だが、今後は、店舗の売り上げ及び店舗への来店客数の実績を分析し、地域コミュニティの拠点となるような販売店舗になるよう事業者とともに検討する。
継続 (現行のまま継続)		
継続 (事業改善して継続)	○	
縮小（減）		
廃止		

部	企画部 事業部	課	企画政策課 地域振興課
---	------------	---	----------------